

# 筆山

第69号 / 2021年2月

土佐中・高等学校同窓会

関東支部会報

編集人 / 中平 公美子 (59回)

発行人 / 関東支部幹事長 市川 直介 (53回)

関東支部ホームページ :

<http://www.tosako-kanto.org/>



## 『コロナ禍での総会 ネット中継』

薄坂雄幸 (六〇回)

同窓会HPに掲載されるいろんな写真は昔からよく見ました。同級生の顔見つけると嬉しくなるんです。だからいろんな写真がアップされる度に隅から隅まで見てました。でも、写真だけだとそこで何話しているのかわからない。「じゃあ、中継したら面白いんじゃない?」と思って、懇親会のビデオ中継を企画していました。それが3月かな。そこからコロナに振り回されて、幹事会の中でも、一旦延期としたけど今年には中止がいいという意見が圧倒的に多くて、「じゃあいっそ、総会全部中継してネット総会にすれば?」と提案して、そしたら代表幹事の久松さんが面白くって賛成してくれて、総会を開催する事になりました。それが9月12日。

そこから再度準備を始めたんですが、いざやり始めるとやっぱり大変。ZOOMを使う事は決めてたんですが、構成とか何も考えてなくて、でも費用の事もあるのでまず構成をきちんと決めないといけない。それでZOOMのサービスを調べ始めてウェビナーというセミナー型のサービスがある事を知ってそれを使う事にして、「マニュアルも必要だよな?」と言われて泣きそうになりながらマニュアル作って、いざ会場でリハしたら全然駄目ダメで。仲間内のZOOM飲み会とかなら適当でいいと思うんです。顔が見られて話ができればそれで十分なので。でも、ちゃんとした会の中継なんでぐだぐだ感極力排除したい。画面は常に1つのカメラ映像に固定したいし画質も安定させたい、講師がスライド表示する時はそっちを優先したいし、音も極力雑音入らないように会場PA(音響機器)の音を引き込みたい、と拘りだすと、経験無いんで試行錯誤しながら設定を見つけていくしかない。結局、事前に会場で四回リハしました。

ネット中継は、コロナが終息して以降もいろんな可能性があると思うんです。特にいままで総会に関心を持たなかった層とか、若い世代に関心を持って貰える可能性があるんじゃないかと。

定着したら面白いかもですね。

# 関東支部総会が

## 行われました

### 令和2年月11月28日(土)

#### 関東支部報告

総会では、活動報告、会計報告、役員改選が行われた後、小村校長先生によりビデオで母校の学事報告がなされました。講演は、松崎圭祐さん・山本康一さん（詳細は4〜6ページ）がスライドを交えて行いました。懇親会では、濱田現高知県知事、尾崎前高知県知事、デハラユキノリ氏のビデオメッセージが紹介されました。



支部長もマスクをしたままで開会のご挨拶



スクリーンに集中する出席者の皆さん

今年度の学年幹事会と総会の予定は未定ですが、決まり次第H p等を通じてご連絡いたします。  
一日も早いコロナ感染の消息と、皆様のご健康を祈るばかりです。また元氣にお会いいたしましょう。

延期されていた関東支部同窓会が、11月28日コロナ感染リスク対策の中、無事に開催されました。リアルとネットを併用した新しい形の同窓会に「0の会」の皆様が挑戦。アメリカからの参加者もあり、まさしく、新しい時代の同窓会のあり方を実感することが出来ました。

お弁当に缶ビールと今までにな  
い形ではございましたが、高知の  
食材を使ったごちそう弁当を用意  
してくれ、  
その内容と  
美味しさに  
皆様満足し  
てください、  
まさしく「ご  
ちそう弁当」  
の様な中身  
の濃い同窓  
会が出来ま  
した。「0の  
会」の皆様、  
大変な中の開催、本当にありが  
とございました。  
今しか出来ないことをしよう！  
と言う思いが、次のステージへの  
扉を開けてくださった、土佐校百  
周年にふさわしい素晴らしい同窓  
会でした。



総会・懇親会担当幹事

西森さと



新事務局長の浦田理有（左・76回）さん  
新副幹事長の町田憲良（右・67回）さん



参加者はまずは黙ってお弁当を食べます



ZOOM参加者への対応は万全です



ダブル講演が行われました



前事務局長の二宮 潔さん（49回）  
長い間お疲れさまでした



準備会は0の会から1の回へ引き継ぎ



# 懇親会 写真集



会場最年長の三澤衡一郎さん（19回）の乾杯のご挨拶の後ホーム別に分かれて懇親会



## 三二百年展

会場は高知から持ち込まれた  
パネルで埋め尽くされ  
ZOOMを見ている人たちにも  
紹介されました



YOUTUBE.COM  
2020/11/28 土佐校同窓会関東支部総会

マスクと消毒で感染対策された会場で  
司会者やZOOMやREMO担当者は  
モニターを眺めたり、ビデオやマイクをもって  
参加者からコメントをとりました。  
総会準備会担当は1の会に引き継がれました。



# 百周年行事 令和2年11月18日を迎えて

## 高知新聞 百周年記念特集



あけぼのC

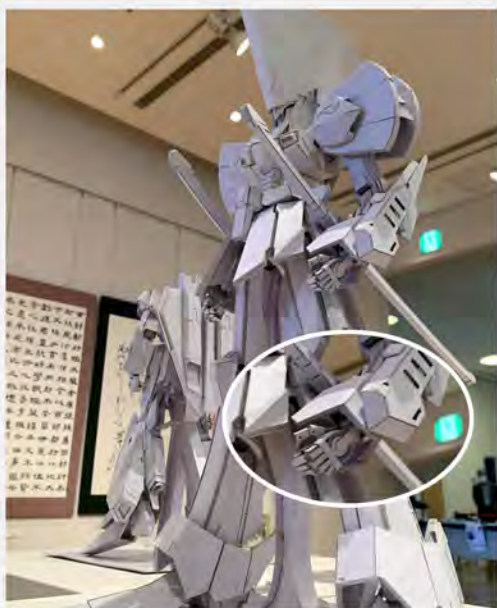
11月18日の百周年当日、高知新聞から創立百周年記念特集が朝刊とともに配布されました。大きく配置された合田佐和子さん(34回)の絵『あけぼのC』はお祝いにふさわしく華やかに、村木厚子さん(49回)の『「学び続ける」を支える』では、土佐校がすべての子どもに学ぶ機会と生涯学び続ける基礎を身に着けることが出来る環境を創る一機関であるとともに、関係者で力を合わせてそうした社会を創ることに力を尽くしてほしいと呼びかけました。

小村彰校長と傍士銃太理事長から、地元への感謝と2万人を超える卒業生が、創立者の建学の精神を引き継ぎ、多様性と自主性を尊重しいい培われた絆で、複雑な新しい時代へと更なる一歩を踏み出すとのご挨拶がありました。

『土佐の同胞』として多分野で活躍する片岡方和さん(40回)、大森望さん(54回)、森岡浩さん(55回)、デハラユキノリさん(68回)、島井咲緒里さん(74回)、浅川純さん(85回)が、現在のお仕事や学生時代のこと、そして現在と未来の土佐校生にエールを送りました。『自主自立の精神を大切に今が輝き未来を拓く』のページでは、未来の土佐校生へのメッセージが届けられました。最終ページでは『向陽新聞』が復活。新聞部の学生が取材と撮影を担当、【白線のこと、運動会のこと、学校給食のこと、名物先生からのレール】が掲載されました。



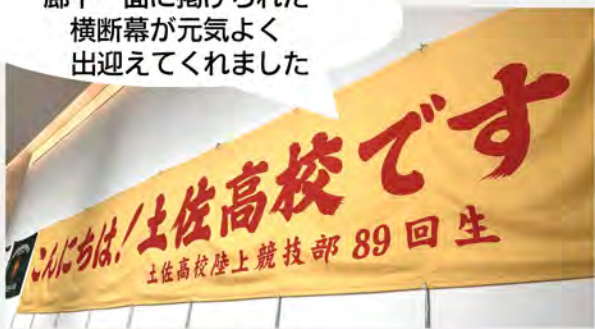
## 百年展 @高知かるぽーと



運動部の展示では  
沖縄や岩手の  
インターハイで使用  
した女子のバトンが  
輝いていました

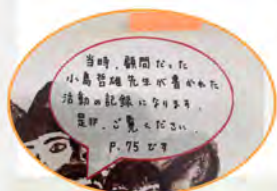


廊下一面に掲げられた  
横断幕が元気よく  
出迎えてくれました



百年展は5日間にわたり開催されました。土佐校の歴史として学校の起りや校舎の変遷、答辞の筆文字原稿など貴重なものが並びました。やぐらグラフィティでは、懐かしむ声が聞こえ、年次の入った手書きの入試問題や定期考査問題のコピーは、お持ち帰りも出来て好評でした。黒板や机で教室が再現されて、授業中の声が流れていました。

百年大年表のパネルは、全学年の出来事を年表とトピックス(創立百年史に掲載)。甲子園出場やインターハイでの活躍、雨の運動会は写真でも楽しめた。西森茂雄先生のクラスだよりからは、クラスの一休感が伝わってきました。卒業アルバム編集員の言葉からは、悔いのない高校生活への満足感が感じ取られました。部活動の展示では、輝かしい賞状や写真であふれていました。その中に土佐校創立五十周年誌が置かれ『当時、顧問だった小島哲雄先生の書かれた活動記録』に付箋がつけられ、数ページあるその活動日誌は、先生の温かさで溢れていました。50年前も今も、支え見守られての高校生活なのだと実感させてくれました。時代と共に進化する土佐に大いに期待する展示でした。



# 講演「ことばの海を渡る船 国語辞典『大辞林』編集の現場から」

山本康一さん（六〇回）

三〇年近くにわたってほぼ一貫して辞書編集に関わる仕事をしてまいりました。主に担当した辞書としては昨年改訂版を刊行し、金高堂さんのお招きでオーテピア高知で刊行記念講演を行いました『大辞林第四版』、また、つい先週発売になったばかりで、『日本で一番売れている国語辞典』『新明解国語辞典第八版』などがあります。また、二〇一三年公開の映画「舟を編む」では辞書製作に関わる監修を務めました。

「辞書編集者」というと、ひとつは大学等の日本語学・国語学の研究者から構成される編者・編集委員と、もうひとつは出版社の編集部員をそれぞれ指す場合があり、両者が協力して編集作業を進めて行きますが、私は後者の責任者ということになります。

担当している『大辞林』は辞書の分類でいうと中型国語辞典となりますが、一冊ものの大型の国語辞典です。収録対象は古代から現代の語まで、そして日常語から学術専門用語・固有名詞まで、と日本語の総体を収めることを目指しています。改訂に際しては例えば「令和」や「インスタ映え」などの新語を入れるのももちろん、「神懸かる」や「深掘り」など新しい意味や用法が加わったもの、また「猿人」などのように学問研究の進展によって内容が新しくなっ

ているものや、「日本産業規格」のように制度変更による名称や内容の変化を取り入れるなど、さまざまな言葉の変化への対応を行います。言葉は常に変化し移り変わっており、その変化をとらえるために言葉の観察を日常的に行っています。新聞や雑誌、テレビ・ラジオ・ブログやネットニュース、また市中の看板や広告等々、生活の中で出会うあらゆる媒体を対象に見つけた語や用法・意味などを用例カードに記して保管し、これらが辞書の材料となります。



言葉の変化というと、「変化」なのか「誤用」なのかということに常に問題になります。例えば「檄を飛ばす」という慣用句の意味は文化庁の調査によると七割近くの人が「元気のない者に刺激を与えて活気付ける」という本来の

意味でない方で回答している。『大辞林』ではその意味で使われていることにも触れたうえで「本来は誤り」としていますが、変化なのか誤用なのかは悩ましいところがあります。「ラ抜き言葉」も誤用のように言われますが、言語の面では合理的に説明できる変化の一つであるとも言えます。

言葉による「分断」が今大きな問題になっています。フェイスブックやポストトゥルースという言葉、今回の新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってデマも含めた情報が爆発的に拡散する「インフォデミック」という現象、またネットやSNSで自分の考えや嗜好に近いものばかりに取り巻かれてしまい、それが絶対的に多数派だと思いつつ「フィルターバブル」や「エコーチェンバー」という現象も生じています。そこから発せられる言葉は、多様な人々を結びつけるのではなく、通じない言葉ですれ違ひ人と人を分断する、そういう状況は非常に問題だと思えます。今一度、言葉の意味や使い方を立ち止まって考える、そういうきっかけに国語辞書を使ってもらいたいと思えますし、また、そういう役割を果たす責任も感じています。

『大辞林第四版』では「土木」という言葉に「あらゆる産業・経済・社会等人間生活の基盤となるインフラを造り、維持・整備してゆく

活動」という要素が新たに書き加えられました。これを見た土木学会の方から、画期的な語釈であると大きな評価を得ました。国語辞書の言葉には、このような期待もあるのだとあらためて感じたことでした。そういう国語辞書の役割とは何か、ということですが、人の学びの過程とは幼児から専門家に至るまで知識を獲得して行く道筋、すなわち「学習」から「専門」へと流れだと言えます。一方で、知識の性質として「規範」と「記述」という二面があります。人は学習の初期には規範性の高いものを学び、やがて多様な知識、専門的な知識を身に付けて行くという過程をたどりま。まさに「下学上達」という『論語』の言葉どおりですが、国語辞書は言葉の面でのこの過程を助け支えるものであると思えます。

国語辞書は言葉という古《いにしえ》からの財産を規範として守りつつ、現在の広大な世界の多様性を反映して生じる言葉も示すという役割があります。言葉は人間生活の基本を成すものですが、その言葉をきちんと位置付け、言葉の海を渡る船として、日常生活の用に資する究極の実用書として国語辞書はあると思えます。ぜひ時々手に取ってご利用いただけると幸いです。

活動」という要素が新たに書き加えられました。これを見た土木学会の方から、画期的な語釈であると大きな評価を得ました。国語辞書の言葉には、このような期待もあるのだとあらためて感じたことでした。そういう国語辞書の役割とは何か、ということですが、人の学びの過程とは幼児から専門家に至るまで知識を獲得して行く道筋、すなわち「学習」から「専門」へと流れだと言えます。一方で、知識の性質として「規範」と「記述」という二面があります。人は学習の初期には規範性の高いものを学び、やがて多様な知識、専門的な知識を身に付けて行くという過程をたどりま。まさに「下学上達」という『論語』の言葉どおりですが、国語辞書は言葉の面でのこの過程を助け支えるものであると思えます。

講演後お礼の花束をお渡ししました



当日持参された国語辞書をプレゼント

## PROFILE

1985年 土佐高校卒業  
1992年 東京大学文学部卒業  
1993年 三省堂入社  
2010年 辞書出版部部長（兼 大辞林編集部編集長）

日本民間放送連盟賞中央審査委員（ラジオ教養部門）  
映画「舟を編む」（2013年）辞書制作協力

# 講演「腹水は全量抜いたら元気になれる」

改良型腹水治療システム(KM-CART)による積極的症狀緩和と

オーダーメイドがん治療への挑戦 松崎圭祐さん(五〇回)

世界でも私一人が専門医として行っている腹水治療についてご紹介させていただきます。

現在、日本では男性の2人、女性の3人に1人が癌になり、3人に1人以上が癌で亡くなっています。癌が進行すると、大量の腹水がたまって強い腹満感が持続するとともにお腹の中の臓器は圧迫されて肝機能や腎機能が低下します。腹水には、癌(胃癌、乳癌、大腸癌、卵巣癌など)が原因となる癌性腹水と肝硬変が原因の肝性腹水が大部分を占め、他には腎不全・心不全・低栄養などがあります。大量の腹水が溜まると、胃が圧迫されて尿が全く出ない苦しい状態になります。癌治療は中止されて緩和ケア病棟でモルヒネなどの医療用麻薬の投与を行います。腹水の苦痛は緩和が困難で我慢するしかないこととなり、医療界はこの現状に耐えられていません。腹水は治療ができないというのが未だに世界の医療界の常識です。

1977年、外科医が日本オリジナルの腹水治療であるCART(カールト・腹水濾過濃縮再静注法)を開発、1981年に保険治療となったのですが、副作用が強い上に効果に乏しく、さらに高価な装置が必要で普及していません。ポンプで強制的に押しこむために腹水中の癌細胞や血球を壊すだけで

なく、粘液やエンドトキシンという細菌の出す毒素も濾過してしまいます。また膜が2〜3Lで詰まるために以後の処理ができなくなり残りの腹水は捨てられることとなります。

腹水中には患者の癌細胞だけでなく身体に重要な蛋白質(栄養)が多量に含まれているので、ただ抜いてしまうと栄養と免疫が低下して一気に体が弱るだけでなく、さらに腹水が溜まりやすくなるといふ悪循環に陥ります。また、一度に大量の腹水を抜くと血圧が下がってショック状態や急性腎不全になって命の危険が生じるのです。以上より、日本でも世界の医療でも腹水に対しては手を出してはいけないというのが常識で、多数の腹水難民が生み出されているのが現状です。この解決法として、私の開発したKM-CARTがあると

考えています。

私は、土佐高を卒業後に広島大学医学部に進み、卒業後は腫瘍外科に入学しました。その夏、1年ぶりに実家に帰省すると母のお腹が大きく、卵巣癌で大量の腹水がたまって

いる状態でした。1週間後に手術を受けましたが、すでに癌がお腹全体に広がっており、半年の命だと診断されました。父を一人にすることもできず、開院したばかりの高知医大に帰って心臓外科医として勤務、人工心臓のポンプや膜の研究、循環管理を学び、病理学教室では癌の研究をしました。平成元年からは山口県の防府消化器病センターで消化器外科医として3000例を超える胃癌や大腸癌の手術を行い、再発して腹水が溜まった患者さんの緩和医療を行って最期まで看取りをしてきました。腹水で苦しむ患者さんをなんとか楽にしたい一心で、2008年に心臓外科医、病理医、消化器外科医の経験を活かし、クラレの協力を得てKM-CARTを開発しました。(辛い抗癌治療をやり抜いた母親は卵巣癌を克服し、89歳の天寿を全うしました。)

KM-CARTシステムを使えば、20L以上の大量腹水であっても一日で全量抜いて苦痛を取り除くことができます。腹水の中には、赤血球、白血球、癌細胞、細菌などの細胞成分と蛋白質(栄養)のアルブミンと免疫グロブリン、ナトリウム、カリウムなどの電解質と水が含まれています。患者さんから抜いた腹水から最初の膜(フィルター)で細胞成分をすべて取り除き、次の膜で余分な水と

電解質を抜いて、蛋白質を濃縮して血管内に返します。グロブリンの中にある癌抗体により腫瘍が小さくなったり、腫瘍マーカーの数値が下がっていく患者さんもいます。癌細胞を取り除いて栄養を返してあげると、全身状態が回復して抗癌剤などの治療が再開出来る患者さんが多数います。余命1か月と診断を受けた患者さんが、全量の腹水を抜くことで辛い腹満感が緩和されて食欲、気力が回復し、生きる希望がわいてきます。まず辛い症状を緩和することが病氣と闘うためには重要ですよ。

癌細胞が取り除かれ、栄養は返ってくるという極めて理にかなった治療が日本オリジナルで出来ました。安全に全量抜くKM-CARTの技術と腹水に含まれていた癌細胞を活用して抗癌剤の開発、癌ワクチンの作製といったオーダーメイド治療を含めてKM-CART治療と呼んでいます。2009年に研究会を立ち上げ、2011年に東京の要町病院で世界初の腹水治療センターを設立し、治療技術の普及に努めています。

今後の医療の世界を制するのは細胞で、一つはips細胞、もう一つは癌細胞だと考えます。新規抗癌剤の開発など癌研究には多数の生きた癌細胞が必要です。腹水は邪魔者ではなく、生きの良い癌細胞を簡単に手に入れることができると癌研究の宝庫です。病理学教室で多くの癌細胞を観察してきた私は、腹水から回収した癌細胞からオーダーメイドの癌治療ができな

いかと考えて54歳で東京に出てきました。樹状細胞ワクチンの開発に加えて、効果がある抗癌剤の選択や遺伝子解析による分子標的薬(癌細胞特有の蛋白質を標的にする薬で、従来の抗癌剤よりも副作用が少なく)でその患者さんの癌細胞に合わせたオーダーメイドの治療が可能になります。現在、国、企業から10億円の予算で癌細胞のバンク化が進んでいます。分子標的薬の開発など癌研究のために、国立がん研究センターや大学研究機関に癌細胞を提供中で、春からは本庶佑教授の研究所にも癌細胞とリンパ球を提供します。国立がん研究センターでは、胃癌においては世界トップの百株以上の癌細胞株が樹立され、新たな抗癌剤の開発が進んでいます。KM-CARTにより腹水が溜まれば終わりでなく、新たな治療が始まるのです。KM-CARTの詳細は、私の本『がん腹水治療』(星の環会出版)をご覧ください。



長期入院による利尿剤投与、腹水ドレナージ+アルブミン投与も効果なく、これ以上治療はできないといわれて退院。HPでKM-CARTを知り受診。



がん腹水治療 松崎圭祐

がん腹水治療

腹水を抜くと元気になる!

大量腹水治療法を開発した医師の仕事



大量腹水治療法は世界初なんです。癌性腹水には血液や粘液などが含まれることが多く、従来型のCARTシステムでは濾過膜が2、3Lで詰まり、以後の処理ができませんでした。KM-CARTシステムは膜洗浄機能を有して詰まったら洗浄を繰り返しながら、最大28Lまで一度に処理をしています。全量処理を行うことで回収できる蛋白質(栄養と免疫)は平均70gで、最大は490gも取れて血液製剤で換算すると約250万円相当の高価な栄養分です。また、膜を効率的に使用することにより、1L当たり11分と迅速に処理が可能です。迅速に処理ができると、早く患者さんに自己蛋白を返すことが出来るために安全に大量に抜くことが出来ます。世界にもこれだけ有効な腹水治療はなく、我慢するか抜いて捨てています。苦痛が取れて栄養が返ってくる治療は、患者さんにとって嬉しいですね。技術的にご苦労されたことはあります。

心臓外科医時代の膜とポンプの研究、循環管理の経験、病理・外科医時代の癌研究、癌治療の経験から短期間で開発できました。安全に大量抜くためには、腹水にストレスをかけずに処理する方法と処理速度、処理量の多さが重要です。20L以上の大量に抜く時も循環管理を徹底し、栄養分を戻しながら抜くことでショックにはなりません。処理する膜を外から内に低い陰圧で引き込んで濾過し、詰まった膜は生理食塩水を使って内から外に洗浄して何度でも再利用できます。また回路もシンプルで医療機関ならどこにでもある吸引装置と汎用のポンプで効率よく処理可能にしたのがKM-CARTシステムです。

PROFILE

- 1975年 土佐高校卒業(50回)
- 1981年 広島大学医学部卒業 同第二外科入局
- 1982年 現高知大学医学部 第二外科入局
- 1989年 財)防府消化器病センター(山口県)勤務
- 2003年 現高知大学医学部 臨床教授就任
- 2008年 KM-CARTシステム開発
- 2009年 CART普及目的で研究会設立
- 2011年 要町病院(東京都豊島区)腹水治療センター長就任 現在に至る

**要町病院 03-5917-2607**  
〒171-0043 東京都豊島区要町1丁目11-13  
[http://www.kanamecho-hp.jp/clinic\\_daini/fukusui/index.html](http://www.kanamecho-hp.jp/clinic_daini/fukusui/index.html)

第7回 要町病院 腹水治療センター長 松崎圭祐さん (50回)

インタビューを終えて

専門家の指示(ガイドライン)に問題がある場合、あなたが現場の人間ならばどうするだろうか。多くの場合、たとえ課題があれど、ガイドラインに順うことが良しとされるだろう。

松崎さんは、従来の治療方法が抱えている問題を論理的に考察し独自の策を開発された。その結果、多くの患者の人生を好転させている。リスクを負いながら、社会を変える姿勢を私たち後輩も見習いたい。

佐藤 彩記子(八一回)



# 都会で子育て

長江悠夏 (83回)



上京したのは18歳の時。そこから早13年が経ち、現在31歳。東京で就職し、東京で出会った夫と、3歳と1歳になる娘と4人暮らしをしている。多様な生き方がフィチャーされる昨今、取り立てて特徴のない生活をしている私が、多くの先輩方の目に触れる筆山のコーナーに寄稿させていただくのは大変恐れ多いのだが、普通だからこそお伝えできる現在のリアルな「都会で子育て」があるのかもしれない、と筆を執った。

故郷を離れて子育てをしている人は、親以外を頼れる状態を作っておく必要がある。仕事が終わっている日に限って、子どもが熟を出して保育園から呼び出される、または休まざるを得ないということは子育てであるあるだが、実家が遠方だと、すぐに駆け付けられる親族はなかなかない。「遠くの親類より近くの他人」という諺があるように、ファミリーサポート(※1)やベビーシッターサービスを活用しながら、何とか夫婦で回しているという家庭は少なくない。私自身は、高知にいる母のフットワークが比較的軽いことや、夫が柔軟な働き方ができる会社に勤めているおかげで、そういったサービスを利用することは少ないが、「近くの他人」に助けられることは幾度となくあった。

象徴的な出来事になったのは、2020年4月に起きた、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令である。私は、2019年10月に次女を出産したことを機に育児を取得していたが、2020年4月から復職を予定していた。次女の慣らし保育(※2)が始まった矢先の出来事だった。保育園は休園となり、これまで家庭保育をしていた当時0歳の次女に加え、当時2歳の長女も加わった。さらに、夫の会社はすぐに在宅勤務に切り替わり、狭い我が家は力オス状態となった。

夫の仕事を邪魔しないようにと奮闘するが、簡単に言うことを聞く年齢ではない。思わず私も声が大きくなり、子どもが泣き出すと、静かにするも何もあったものではない。こんなに上手いかなにかのものか、と疲れ果て、悩み、自己嫌悪にも陥った。そんな私の助けになっただけで、同じ社宅に住むママ友たちの存在だった。彼女たちとは、長女が歩き始め、外で遊ぶことが増えたことをきっかけに仲良くなり、子どもたちを遊ばせながら世間話をしたり、家を行き来したりもした。緊急事態宣言下で、出かけることもままならない日々だったが、自然と社宅の敷地内の一か所に各家庭の外遊び用のおもちゃが集まり、タイムングが合えば一緒に遊んで過ごした。小学生だけで留守番をせざるを得ない家庭もあったため、小学生たちも一緒に遊んで遊ぶこともあり、まさに地域ぐるみで子育てをしていると感じる瞬間だった。

また、緊急事態宣言による約2か月の家庭保育は、私の子育てに対する姿勢も変えた。正直に言うと、それまで「上手くやっている」と思っていた。しかしそれは、育休中かつ平日9時〜16時の間、保育園が長女を見てくれる日は夫婦で子ども2人を見ていたからだと気づいた。のらりくらりと避けてきたYouTubeも解禁し、泣かさないために普段は応えない要求に応じることもあった。私は、この2か月で沢山の「あるべき」を捨てた。そこに至るまでにはたくさん悩んだが、ある本との出会いにより「これでいいのかもしれない」と思えるようになった。スクールカウンセラーかつ医師である明橋大二さん著の「子育てハッピーアドバイス」といシリーズ本である。この本では、主に子どもへの自己肯定感を育てるためのヒントがたくさん書かれているが、子どもの健やかな成長のためにも、親(特に責

任を負いがちな母親)の支援が重要であることも主張している。当時一番の悩みは、2歳長女の要求が激しいことだった。毎日こっちは受け入れていいのかわからない、どうしたらいいのかわからないと途方に暮れていたが、「子育てハッピーアドバイス3」に、「子どもの要求を、どこまで認めてもいいのでしょうか」というドンピシャな問いがあった。回答を要約すると、その悩みが出るということは、子どもが自己主張できる能力が育ってきており、そして、親が悩んでいるということは、ある程度子どもの主張を受け入れ、度が過ぎた要求は断っており、この対応が子どもの自己コントロール能力を育てるから良いことだと書かれていた。線引きは人それぞれ、家庭によりけりなので一概には言えないが、悩みが生じていること自体がちゃんと子どもと向き合っている証拠だと言われた気がして、心が軽くなった。(左ページへ)

長江さんに聴いてみました

Q お子さんの好きな本は？

A 長女

はじめてのおつかい

パンどろぼう

3さいのふしぎがわかるよ！

次女

いないいないばああそび

だるまさんシリーズ

Q 頑張れない時の力の抜き方は

A 寝かしつけのあとハーゲンダッツ

を食べる、

一人カフェ時間をもらう

Q 自分が育つ過程で家族や環境から教

わった大事にしたい価値観

A 幸せは自分の心が決める

教育にかけるコストは惜しまない





UIターンをお手伝いします。  
**転職・移住**

気軽に  
相談してよ♪

- Uターンしたくなったら  
▶▶▶ 私たちにご相談ください。
- Uターン、Iターン希望の方がいたら  
▶▶▶ 私たちをご紹介ください。



一般社団法人  
**高知県移住促進・  
人材確保センター**



高知  
本部

厚生労働大臣許可番号  
39-ム-300012

高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無料職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、UIターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。

☎ 088-855-7748    ✉ jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

**東京オフィス**

☎ 03-6206-1707

[開設時間] 10:00~18:00(平日)

東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F



東京  
窓口

セカンド  
キャリアの  
相談も  
大歓迎!

高知で働きたい!!を  
応援します。

**「高知求人ネット」**

高知求人ネット



WEB

ご相談・ご紹介等、よろしくお願いたします。  
高知県移住促進・人材確保センター



一般社団法人  
**土佐婚倶楽部**<sup>®</sup>  
TOSAKON CLUB

婚活のお悩みを心を込めてサポート致します  
年に数回、合コン等やっています! 詳細はHPで

代表理事・東京相談室長 織田祐輔 (45回生)  
顧問 梅原 毅 (45回生)  
顧問弁護士 浦田理有 (76回生)

URL <http://tosakonclub.com/>

東京相談室 080-5010-5545

〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-21

これらを経て、私が気を付けているのは次の3点だ。

①子どもを一人の人間として扱うこと  
自分が間違っていたら謝ること、約束は守る(守れないときは理由を説明して謝る)こと、その他にも、子どもに選択肢を提示して選んでもらうなど、意見を尊重できる環境づくりを心掛けていく。

②子どもの感情を否定しないこと  
先述の本によると、自分の感情を思い切り表現し、それを受け止めてもらえらることで、自己肯定感が育まれ、徐々に自分の感情を「コントロールできるようになるぞうだ。子どもが「痛い」と言えば「痛かったね」と、悲しくて泣けば「辛いんだね」と共感してあげること。これが意外と難しい。あまりにも頻繁に泣かれると、「もううるさい!」と思ってしまうことも多々

あるので、日々修行中である。

③親も完璧ではないと理解してもらおうこと  
人間とは揺らぐ生き物であり、その「揺らぎ」こそが、人間の魅力の一つだと私は考えている。人間は完璧ではないが、一方で子どもの前ではキチンとしたいと思う人が多いのではないかと私もその類だった。しかし、親が肩肘張って子どもが疲れるだけだ、と思うようになってからは、比較的力量を抜いて子どもと向き合えるようになった気がする。

文字にすると単純で当たり前のことと思われるかもしれないが、心掛けないといけないくらい、日々の生活に忙殺されているのが現実だ。さらに、SNSで飛び交う意見や顔のない世間の言葉、悪意のないお節介りに振り回されることもある。そんなときは、一度立ち止まり、ありのままの子どもの姿を見つめ、「今日も一日元

気に過ごしているからオッケー!」と大きく構えていられるような親でありたい。そして、そんな風に気持ちに余裕を持って過ごせるようにするために、夫や親だけでなく、保育園の先生や近所さんを巻き込んで、みんなで子育てをしていきたいと考えている。

※1 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)のこと。乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の労働者や主婦等を会員として、児童の預かりの援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行うもの。

※2 子どものストレス軽減のため、少しずつ保育園又は幼稚園で過ごす時間を延ばしていくもの。

# ハイクの会 笑い感動の 23年間

## ハイクの会とは

ハイクの会を始めるきっかけとなったのは、「一度は日本一の山に登らにやあ」と37・38回が中心となって、富士山登頂を目指したことによる。八合目の山小屋で雑魚寝して、九合目でご来光を拝んだことだった。

続けるきっかけとなったのは、せつかく買った靴が勿体ないと言う単純なことであるが、家族を含めての土佐高OBによる毎年恒例の一泊登山バスツアーとなり二十三年続いてきた。一応百名山をターゲットにして登りやすい山はほぼ踏破している。

参加者の体力に差があるので登山組と散策組のふたつにグループ分けをしたこと、バスの中で俳句・川柳を楽しむこと、決して上品とは言えない毒舌が飛び交うこともこの会が長く続いてきたゆえんであると思う。この会は世代を超えて続いて欲しい。

橋田止幸(37回)



## 俳句と川柳のこと

第六回『那須ハイク』(2002年)

の時、昼食に立ち寄った店の看板に「土佐俳句の会御一行様」とあり、帰路の車内でハイクだけではなく俳句もやろうと話が出たが機会を逸していた。5年後、第十一回『乗鞍奥穂高ハイク』に俳人の前田勝洋君(38回)に選者を依頼し俳句も始めた。初回の天の句(最優秀)は金澤由里さん(55回)の「飛驒の里 車窓に踊る 秋桜」が選ばれた。

選者が中山世一さん(37回)に代わった第十三回『月山ハイク』では、俳句に加え川柳もやることになった。川柳の初回天の句は神宮美恵子さん(44回)「どうしたのいとしの君のメタボ腹」。中山さん曰く「俳句は感性 川柳は知性」とのこと。「迷句珍句もあるが大体において素晴らしいさすが土佐だ」とおだてられ、さらに入賞者には、陶芸家・井上健郎君(38回)の立派な作品が付与されることもあり、俳句川柳ともに今日まで続いている。これからも『感性』『知性』『ハイキング』の三本立てで継続したいと思っている。

中島 宏(38回)



第9回磐梯山



24年も続くと、少なからずの人々が鬼籍に入った。主力で運営に携わっていたこの二人がいなかったらここまで続いていなかったかもしれない。三宅ヨシロウさんは毒舌で鳴らしたがその人柄を皆が愛した。岡田四郎さんは寡黙だが誰からも信頼される人であった。おまんら今年はどこへ行くぞねという声が聞こえる。

第1回の富士山



第12回谷川岳



第22回木曾駒ヶ岳



# エピソード集

1983年にこちらに移ってから、土佐校の皆さんとはとても楽しい交わりをさせて頂いた。そのなかでもハイクの会は最も大切な交わりのひとつになった。(筆者写真左端・上高地にて)



橋田夫妻(37回)からハイクの会で尾瀬に行くがいきませんかと誘われたのが始まりである。初めてみる尾瀬の景色は素晴らしいかった。至仏山には登らない散策組だったが、私達夫婦にとって楽しい体験にあふれた尾瀬行きであった。その後もいくつもの名山を訪れることができた。同窓の皆さん本当に有難う。森 健(23回)

コロナで二十四回目がダメになったが、毎年一回なので24年が経過している。参加する面々がユニークで毒舌も多い。面白いから続いている。上品でないのも良い。バスを仕立てて一泊して山に登る、そんなことを社会人になつてからも二十三回も続けるのだから面白い学校である。途中で雷に会い奥様を置き去りにした人、日が暮れそうになつた下りで熊に間違えられた人、エピソードも枚挙にいとまがない。



私の初幹事だった白馬の八方尾根の時、前夜まで雨、翌朝は神頼みに近かった。黒菱平までは眺望は効かず、皆が八方池に着いた頃に雲が切れて白馬の険しい峰々が見えた。その時の皆の歓声を聞いて嬉しかったことを今でも思い出す。(写真右端筆者乗鞍岳にて) 濱田継夫(37回)

コロナ禍でも山を愉しむ

山登りから山旅へ山行の愉しみが変わってきた。昨年は山頂を極めるよりも、山小屋に滞在し寛ぎの時間を楽しむ山行が増えた。時節柄どこの山小屋も空いており、サービスも食事も良い。夏の終わり黒部川源流から雲ノ平を4泊5日歩いたが、雲ノ平山荘2日目はどこにも行かず、山荘内で本を読んだり酒を呑んだりして過ごした。晴天続きも幸いして5日間の山旅が満喫できた。帰宅して左足親指に痛風を患い、それが右足靭帯損傷につながり一か月間の通院を余儀なくされたのも愉しかった山旅の蛇足になった。(写真俳句で優秀賞の筆者)



西本憲良(44回)

大学で山岳部に入ってから山登りが好きになり、ハイクの会に誘われて参加しました。貸切バスの楽しい雰囲気が入って毎年参加していました。

結婚し、子供が産まれ、産休?を取りながら、散策組に子連れで参加するようになりました。

3人の子供達は皆さんの孫のようにかわいがってもらい、ハイクの会が大好きです。この会がなければ、子育て中の登山は諦めていたと思います。毎年子連れでも行ける山登りを企画して頂き本当に感謝しています。



大人と一緒に山頂も制覇

岡野啓(70回)

## 体力維持・老後の楽しみに山登り

ハイクの会では、百名山を中心に1泊2日のバス旅を企画してまいりました。(右;企画回と目指した百名山) コロナ感染の収束までは、大勢でのバス旅行は危険と考えます。安全な時期になったら再開します! このまま、ステイ・ホームばかりでは体力が落ちてしまいます。三密を避けて、少人数での散歩やトレッキングに出かけましょう。有志で、日帰り登山を楽しんでいます。近場の百名山(筑波山・両神山など)または奥多摩や丹沢、奥秩父の山々に一緒に登ってみませんか。これから山登りを始めてみたい方も、百名山を目指してみたい方も大歓迎! ぜひお声がけください。



連絡先 中平(59回)  
kumikochun0411@gmail.com

## ハイクの会で 登頂を目指した山々



- 1 富士山
- 2 至仏山
- 3 乗鞍岳
- 4 立山
- 5 草津白根山
- 6 那須岳
- 7 木曾駒ヶ岳
- 8 八ヶ岳北横岳
- 9 磐梯山
- 10 八方尾根
- 11 新穂高
- 12 赤城山・谷川岳
- 13 月山
- 14 吾妻山
- 15 日光白根山
- 16 蓼科山
- 17 蔵王・山寺
- 18 浅間隠山・根子岳
- 19 美ヶ原
- 20 乗鞍岳
- 21 燧ヶ岳
- 22 木曾駒ヶ岳
- 23 安達太良山

江戸の高名会席(二) 江戸時代の両国橋は、現在の両国橋より約50mほど下流にあった。その両国橋の東詰の北側に「片葉堀」と呼ばれる掘割があり、その片葉堀に面して料理茶屋「青柳」があった。近くには駒留橋という小さな橋があった。青柳は山谷の八百善、深川八幡前の平清と並んで高名料亭であった。

青柳に関しては、「氷川清話」に勝海舟が語った逸話が残っている。幕臣の海舟は若い頃、御三卿の一つ田安家の若殿付で田安家に参上していたが、「青柳」は、近所だったから、いつもそこで昼飯を食った。ある年の暮れ、海舟が例のとおり昼したくは青柳に行ったら、いわゆる年越しの準備で、なかなかの景気にみえた。しほらくするとかみさんが出てきて、いろいろと挨拶の末、「殿様、殿様には、



(上) 料亭「青柳」と「与兵衛鮎」<江戸切絵図 尾張屋清七版 1850年頃> 両国橋東詰に片葉堀という堀があり、この堀に面して青柳はあった。また与兵衛鮎は回向院正門の斜め前にあった。両国橋東詰から回向院までの地域はほとんど全域、回向院門前町の趣を呈していた。



(上) 現代の両国橋。幕末の両国橋は50メートルほど下流に架かっていた。その江戸の両国橋のあった場所から筆者撮影。今は片葉堀も駒留橋も跡形もない。



(上) 歌川廣重「江戸高名会亭尽」より「両国青柳」(天保十年頃-1839年頃)。東両国の「青柳」は片葉堀に面した側の入口に専用の棧橋があった。仲居が屋根船に仕出し料理を運んでいる。画賛には「青柳は妙月高く花火の夜」とあり、客と芸者が両国花火の見物に出るところ。

私どもの暮らし向きは、とてもお分かりになりますまい。殿様には、ちよっと景気がいいように見えますし、たが、実のところを申せば、ただ今は家には金といつて一文もありません。よし金がなくて苦しなくても、するだけのことはいたしておかないと、自然と人気が(じんぎ)が落ちてまいりまして、終いにはお客さんが、ここのものはサカナまで腐っているとおぼしめすようになってしまいます。いかほど心の中は苦しめても、お客様方ではもちろん、家の雇い人へでもその心の底をみせるといけなくなりませう。この苦痛を顔色に出さず、じつと辛抱しておりますと、いつか景気は回復するものでございませう」と言つて、顔色も変えず、応対する様子を見て、海舟もひどく感心して、「お前、金が入用なら俺があげよう」と言つて、紙入れ(財布)の底をばらして、三十両放り出してやった。その後しばらくしてから海舟が青柳

に寄ると、こんどは真実に一陽来復で、なかなかの好景気であった。そこでかみさんもいたく前日の礼をのべて、三十両の金を返そうとしたが、海舟はその金を免れさせ、一この金はお前にあげる。実は、この間のお前の話で俺もたいへんに良い学問をした。お前は、ちゃんと胸の中に孫呉の奥義をそらんじ、人間窮達の大哲理を了解しているのだ。この金は、かような結構な学問をしたその月謝と思つて進上するから、取つておけ」といふので、三十両をくれやうたという。当時の高級料理屋の女将の心意気と海舟の性格が良く出ている話である。

寛政期(一七九〇年代)まで江戸の鮎と言えは大阪から伝来した圧鮎(おしずし)が主たるものであった。他には笹巻鮎、ちらし、稻荷鮎などもあつて、寛政頃にはこれらの鮎は江戸中に流行り、よく食べられていた。圧鮎とは四角い鮎桶に鮎飯を詰めて、その上へ具を載せて蓋をして三、四時間圧迫し、味がついた頃鮎筒(すしべら)で一区画つ切り取り梅の酢漬けを添えて客に出す。「口今さます」といふので、四時間待たされるので、食通ぶつて気の短い根っからの江戸っ子には鼻もちななかつた。



(上) 与兵衛鮎は今の両国一丁目と与兵衛鮎発祥の地「江戸風」の碑があり「江戸風」にぎり鮎を初めて大いに繁盛した」とある。

差草九にのに寛衛いにのて、かき者、はう  
業歳生八靈政でた住裏、本所い  
に前でま百岸年ある与んで屋所い  
下札浅れ屋島間。兵屋で

男奉公し、十数年律儀に勤めた。その後道具屋、菓子商などをやったが片っ端から失敗した。長年札差業に勤めて通人趣味を身につけていた予兵衛老人はかねてから大阪伝来の庄鮎にめきたらなく思つて、予兵衛はここに目をつけて文政初年(一八一八年頃)初めて今日のような二ギリを完成し、屋台店で売る鮎として商つた。

西岡恒憲 四一回

# 母校だより

学校長 小村彰

明けましておめでとございませう。コロナに振り回された二〇二〇年でしたが、なんとか創立百周年の行事を、一部計画変更しながらも実施することができました。十年越しの創立百年史の刊行をはじめ、相当なボリュームでしたが、3人の教頭先生の担当部署での献身的な働きに職員が応え、また多くの同窓生・保護者の協力あってこそその成果だと思えます。心から感謝申し上げます。ここではあまりお知らせしていない裏話的なエピソードを紹介したいと思います。

## 【記念品について】

「土佐らしい手土産」という武市教頭の強い思いから、記念式典にお越しの来賓の皆さまへの記念品・手土産は、他では例を見ないような品揃えになりました。学校からの贈呈品としてお渡ししたのは、百年史のCD版とマフラータオルと、永野旭堂本店の「ほうしパン」とひまわり乳業の「リープル」。高知でしか買えない地場産品です。これに、振興会からの「振興会だよりグラフィティ」・紅白饅頭・オリジナルボールペン、さらに同窓生有志からの「土佐百年人物伝 筆山の麓」がはいって、袋はずしり満杯。もうひとつそれよりもさらに重い紙袋。特製の木箱に、本校卒業生が代表を務める県内三酒蔵のお酒二本とデハラユキノリ作の「べろべろの神様」のフィギュア。木箱のデザインと合わせデハラさんにはかなりの無理を聞いてもらいました。受けとった方は驚きつつ、(中には「こんな席に」と眉をひそめる向きもあったかも知れませんが)「いかにも……」と喜んで持ち帰ってくださいました。

## 【百年展について】

高知市文化プラザがるぼーとの七階、五つの展示室からなるこのフロアをまるごと借り切って本校の歴史と現在を展示しようという目論見。校長の無謀な計画に付き合わされた松村教頭はじめ委員の教職員は、請け負った広告会社とともに神経と肉体をすり減らして、ようやく広い壁面、がらんどうだった床面を展示品で埋めました。ステージでも各部の発表の最後に、合同で百周年記念歌が演奏され、大きな感動を呼びました。展示品の中には、四〇年本校にいる私も見たことがなかったものもたくさん。戦前の寮の写真、教育勅語を収めた奉還箱、大嶋校長直筆の卒業式式辞、昭和四一年春の選抜の準優勝のレプリカなど。時間を忘れて見入っている卒業生の姿が多数ありました。このように大概のものは展示したつもりだったのですが、三五回生の女性の方から、「木造校舎の玄関にあった昭和二八年夏の準優勝の記念の大きな鏡はどこ？」と尋ねられ、中三まではその校舎にいたのに記憶がなく、「もしかしたら校舎取り壊しの際に破壊されたかも」などと無責任な回答をしてしまいました。その後、野球部の関係者に聞くと、大変立派なもので、野球部の寮に置いてあるとのことでした。お尋ねをいただいた方、また野球部の関係者の皆さまにこの場を借りてお詫び申し上げます。



甲子園準優勝の楯と旗

この本校の歴史を展示している部屋の一隅の壁を埋めていたのが、毎日新聞の写真部(梅村直承さん(71回)の報道写真です。学校の歴史も社会と切り離せないの思いから本人に頼み込んで実現したものです。写真から伝わるヒューマンなまなざしが私の心を動かしていったのですが、この写真展に寄せられた彼のコメントに、まさに我が意を得たりの思いがしました。彼はこう述べています。「私は写真を撮る時、可能な限り被写体の方の名前を覚えてもらいます。どの国の人も、どんな状況にある人も、我々と同じ生活者で、「名も無き」者はいない、という思いがあるからです。その根底には、土佐校で過ごした日々があります。野球をやったり、映画を作ったりと六年間、とにかく仲間と遊び、学び、いつも語り合っていました。喜び、悩み、苦しむのが自分だけではない、皆同じだ、という発見が毎日のようにありました。確固たる考えを持ち、個人的な交友と共に過ごす学び舎だからこそ、相手の立場を想像する力が鍛えられたのだと信じています」。本校の百年も、たくさんの人の一日一日の積み重ねによって今があります。

名前を存じ上げない方も含め、この百年の歩みを紡いでくださった皆さまに心からの感謝を申し上げます。その第一歩を踏み出す、この春の卒業生九六回生に明るい春の陽光が降り注ぐことを祈りつつ、筆を置きます。  
(二〇二一年一月八日 記)



歴史と報道写真



卒業生の著書



記念歌の演奏 百年展にて

# 「モネの庭」マルモッタン

高知の良さを  
再認識

高知の太陽と青い海や山、多種多色の睡蓮とゆらめく水面、混ざり合う光と花の色は四季折々の自然模様を描き、草木の成長で高さや大きさはその姿を変えます。空の広さと地球の丸みを感じながら、絵画の中の風景を楽しんでみませんか。

ボルディゲラの庭  
43歳でルノワールと旅した地中海のボルディゲラ。その美しい光と色彩に魅了され、興奮とともに描いた30点以上の作品から発想した世界で1つの庭。



自然の森 遊歩道  
「自然の森」の遊歩道を登ると風の丘展望台まで片道30分ほどの散策コースに。高台にある風の丘展望台からは北川村の山や川、太平洋が見渡せます。



北川村「モネの庭」マルモッタンは、北川村とフランスの豊かな自然のミックス【柚子とワイン】から出発した発想が、自然の中に庭園をつくるという構想と重なり、「印象派の画家」モネの創造の源泉とも言えるフランス・ジヴェルニーへ「モネの庭」を再現することで、本家から唯一「モネの庭」の名称をいただき2000年に開園。コロナ禍に20周年記念事業で光の庭をボルディゲラの庭へと全面リニューアルしています。3月1日から新春オープン。  
(2月28日までは冬季休業中。)

水の庭  
時間で変わる光と水の反映。モネの代表作「睡蓮」を描いた風景に出逢えます。モネが晩年に影響を受けた浮世絵を思わせる太鼓橋や藤棚や柳や竹なども。



花の庭  
季節ごとの花はパレットの中を思わせるように彩り、バラのアーチやノルマン圏いの造形と変化する度に新鮮で感動します。



ガーデニング教室や春と秋のフォトコンテストや夏のビアガーデン。10月からはライトアップなどのイベントも開催されます。

アクセス  
高知南国道路・高知南ICが2月27日に開通。高知ICから空港までがつながります。県内の観光スポットへのアクセスもスムーズになります。  
・高知空港より 約45分  
・奈半利駅より 車で約10分

# 『筆山の麓』 先輩の大活躍に乾杯!

識者も「土佐高恐るべし」

昨年刊行した『筆山の麓』は、「土佐からの人材育成」を目指して一〇〇年前に創立された母校の教育成果をさぐるものである。幸い高知新聞の週間ベストセラーズ(金高堂書店調べ)に、発売以来十四週連続ベスト10入り(うち五週一位)という異例の売れ行きだ。

本書は、日本では無名ながらブラジルでは日系社会の巨星と慕われた農業移民の中沢源一郎(1回)や、司法界で知る人ぞ知る下村幸雄を紹介。さらに著名ながら業績はよく理解されていなかった文部次官の宮地貫一、精神科医の大原健士郎、コンクリート工学の岡村甫などの実績にも注力した。

これら創立以来の人材輩出ぶりを評価する反響が、続々届いた。京都大学名誉教授・辻本雅史(教育思想史・松山北高校出身)は、「想像以上に著名な方々がおられるのに驚きました。土佐高恐るべし」の想いです」と記す。



校舎築入れ式の宮地貫一

高三生の梶原胡桃は「先輩たちは自分の好奇心に妥協せずにとことん取り組み、そこから多くの味方を得ていた。私も失敗を恐れずに思い立ったことをやり通す人間になりたい」と語る。

広がる『筆山の絆』

同窓生の、母校への熱い想いも蘇る。西内一(30回)「田島画伯の表紙が素晴らしい。登場人物も『夢追い人』に比重があり、共感できる。一〇〇年の歩みをたどり、母校に想いをはせる確かな記念品になっている」

沖田道子(41回)「多彩な人物が登場し、飽きさせません。一高校の同窓生人物伝とは思えない読み応えです」



瀬戸内寂聴さんと村木厚子

田原哲士(37回)「田島兄弟の家族写真から、ご母堂田島正先生を拝見し、感慨深い。諸木小学校入学時のクラス担任でした。また、最近読んだ『最後の御奉公 宰相幣原喜重郎』の著者塩田潮氏が同窓生と知って驚きました」

宮崎晶子(67回)「激変するテレビ業界に身を置くものとして、年を重ねた今も夢を抱き、挑戦し続ける先輩方の姿に、大きな勇気をもらいました。今すぐにも番組で紹介したい魅力的な人物ばかりです。土佐万歳!」

読者は、時代を切り開いた先輩の活躍に杯を上げ、『筆山の絆』を結び直し、明日の活力をもらったようだ。

引き継ごう『師弟愛・友情』

本書で取り上げた人物から、師弟関係を紹介しておこう。個性尊重の自由な校風を創った三根圓次郎校長の元でこそ、作曲家平井康三郎や歌う三菱電機社長進藤貞和、個人別学習の公文公が誕生した。その三根の恩師は、夏目漱石が帝国大学きつての人格者と称えた哲学者で、ピアニストでもあったケール博士だ。府中市の多磨霊園に息子ディック・ミネ(歌手)と眠る校長への同窓生墓参は、今に続く。

高崎元尚先生は、「見たことのないものを創ろう」と呼びかけ、合田佐和子や田島兄弟を絵の世界に導いた。倉橋由美子や村木厚子など、同級生の友情に支えられて大成した人物も多い。暖かい師弟関係や友情は、卒業生全ての財産であり、母校のよさを再発見させてくれる。(刊行委員一同)

左に通販の「お問い合わせ」先を記載した。



熱唱する進藤貞和



講演中の公文公

高知県内主要書店、高知新聞販売所ほかで販売中。



表紙・田島征三(34回生)

## 【お問い合わせ】

高知新聞総合印刷 出版担当 (担当: 山本)

TEL 088-855-0092

FAX 088-855-0093

ご希望の方はコチラから▶



■定価 1,200円(税込)+要別途送料

# 出版レーダー



鍋島高明 (30回生)  
「細金雅章・柳生二代記」  
2020.9 市場経済研究所  
「介良のえらいて」  
2020.8 市場経済研究所



田島征三 (34回生)  
「せきれい丸」  
2020.11 くもん出版



大橋一章 (36回生)  
「正倉院宝物の輝き」  
2020.10 里文出版



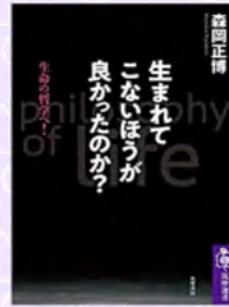
高山宏 (42回生)  
「アリスに驚け」  
2020.9 青土社



川村明 (49回生)  
「ひざ裏のばしドクターの新型コ  
ロナに負けない免疫体操」  
2020.5 主婦の友社  
「5秒ひざ裏のばして 最期の3  
日前までトイレに行こう」  
2020.4 主婦の友社



村木厚子 (49回生)  
「女子供」のいない国 中高年  
男性社会は変わるか (中央  
公論ダイジェスト) Kindle版」  
2020.12 中央公論新社



森岡正博 (52回生)  
「生まれてこないほうが良かった  
のか?」  
2020.10 筑摩書房



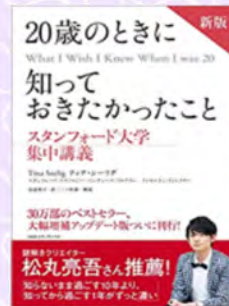
須藤靖 (52回生)  
「ものの大きさ 第2版:  
自然の階層・宇宙の階層」  
2021.2 東京大学出版会



門脇護 (53回生)  
(ペンネーム 門田隆将)  
「崖っ淵に立つ日本の決断」  
2020.11 PHP研究所  
「愛する日本人へ:日本と台湾の  
梯となった巨人の遺言」  
2020.10 宝島社  
「疫病 2020」  
2020.6 産経新聞出版



森岡浩 (55回生)  
「47都道府県・名門・名家百科」  
2020.10 丸善出版



廣瀬裕子 (60回生)  
(ペンネーム 高遠裕子;翻訳)  
「20歳のときに知っておきたかっ  
たこと」  
2020.11 CCCメディアハウス  
「資本主義の再構築」  
2020.10 日経BP  
「マンスキー:データ分析と意思  
決定理論」  
2020.9 ダイヤモンド社



森新 (82回生)  
「脱マウス最速仕事術」  
2020.7 ダイヤモンド社